

東京管区異常気象報告

第11卷 第1号

(1970年1月～3月)

1970年5月

東京管区気象台

2. 異常気象概況

④ 1月30日～2月2日の風雨(雪)(昭和45年1月低気圧)

——管内各地——

気象概況

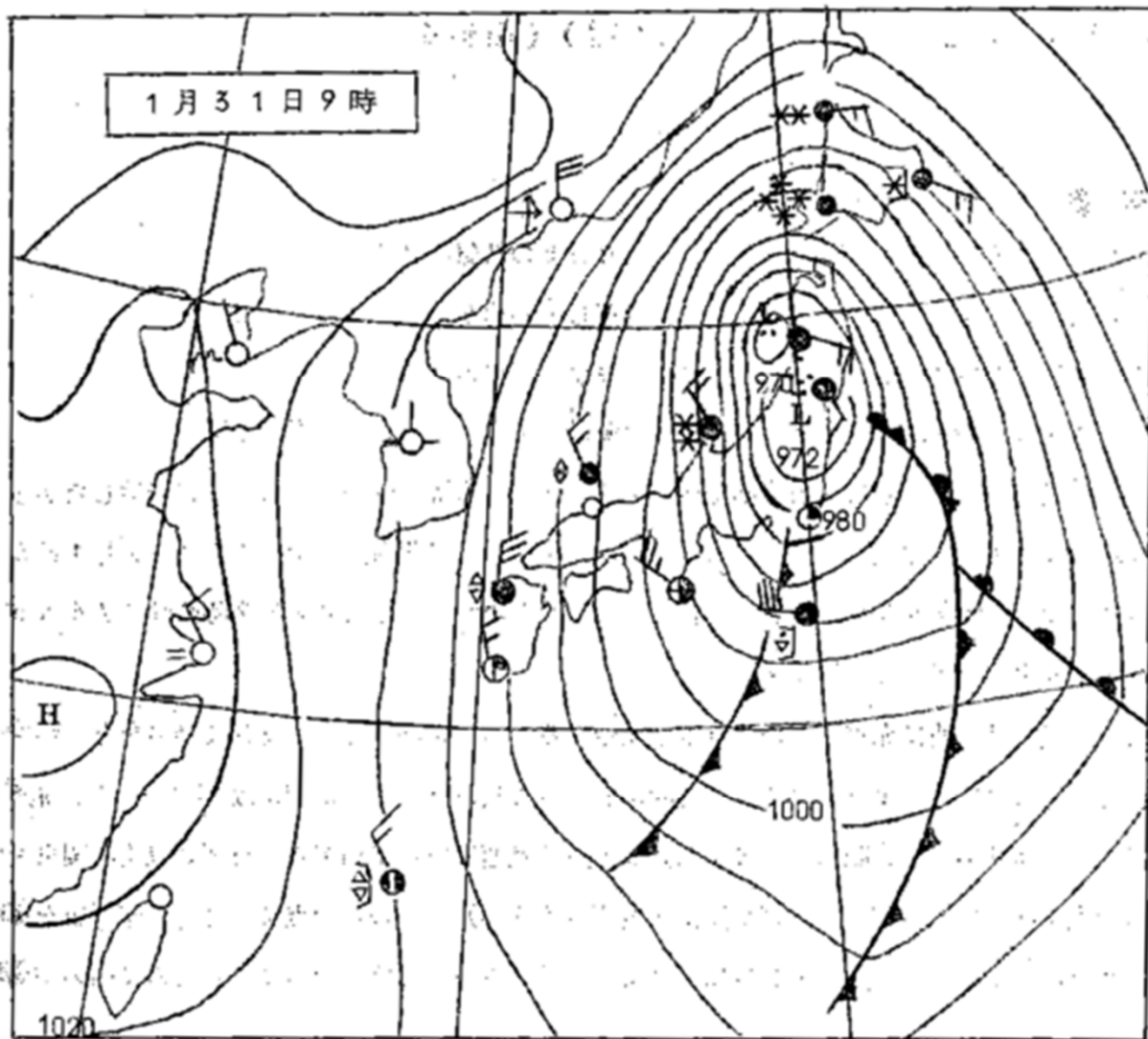
1月29日東支那海南部に発生した1010mbの低気圧は急速に発達しながら毎時60kmくらいで北東に進み30日15時には四国南部に達し中心示度は996mbに深まった。この低気圧は21時ころ紀伊半島西部に上陸し、その後もますます発達して31日3時には静岡市付近で台風なみの976mbとなった。また、このころ新潟県南部に980mbの副低気圧が発生した。これら2つの低気圧のうち前者は関東北部をへて東北地方へ、後者は日本海沿岸をともに発達しながら毎時60km前後の速さで北上し31日夜には2つは一緒になって北海道の南海上を進み2月1日3時に釧路沖で最低示度960mbを示した。そのころから速度は遅くなり2日9時には976mbと衰えゆっくり東へ移動した(第1・2図)。

この低気圧は急速に発達しながら日本を縦走するという冬期としてはまれな経路をとったので陸上、海上とも台風時のような暴風が長時間にわたって吹いた。31日朝には15～30m/sの強風域の半径は1,500kmにもおよんだ。最大瞬間風速は伊豆諸島で40m/s以上、関東・中部地方の太平洋沿岸などで30m/s以上を観測(第3図)管内の6地点で1月の累年極値を更新した。また、低気圧が2月1日～2日にかけて北海道の東方沖で停滞ぎみになったので強い季節風が長時間続いた。

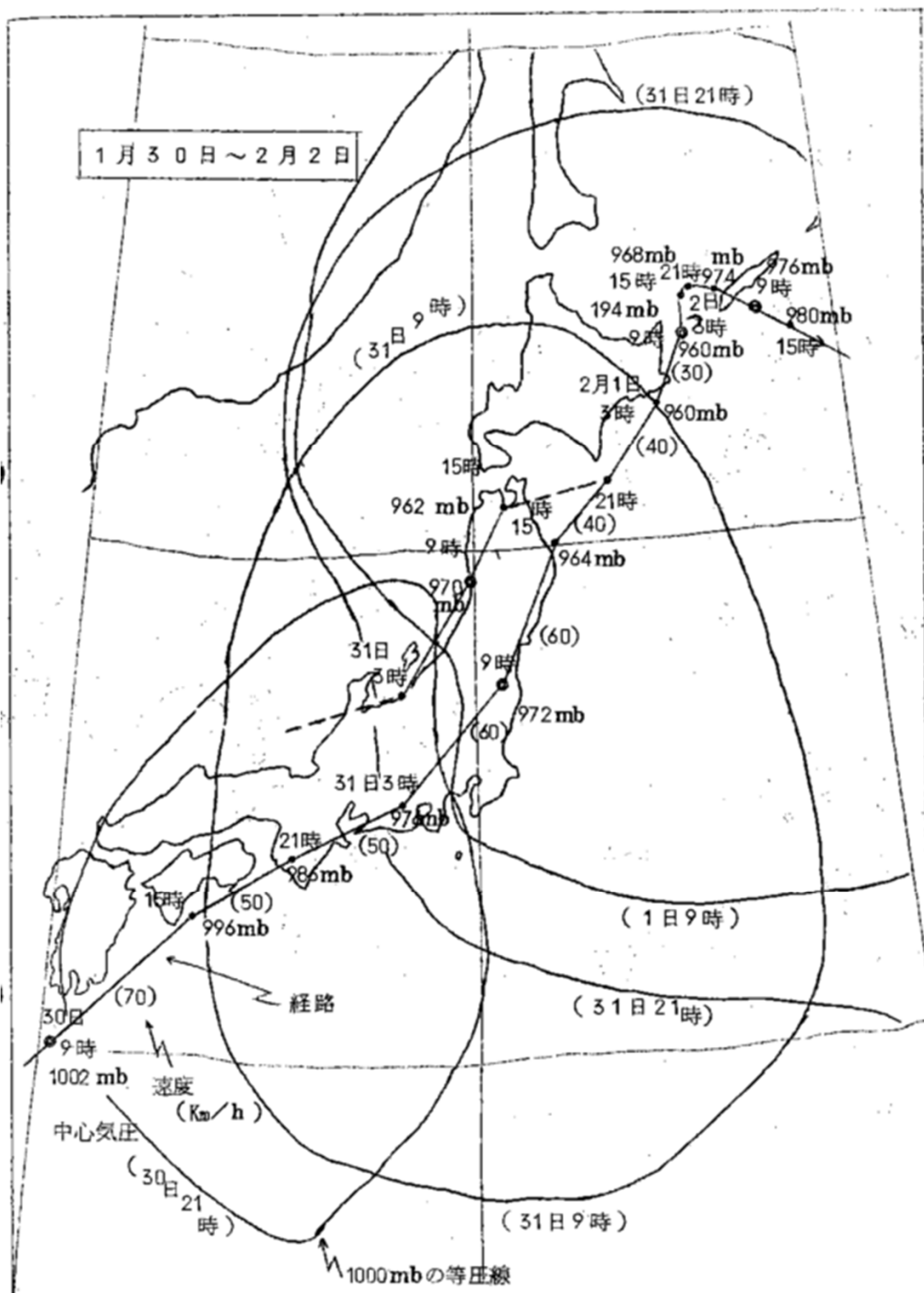
降水量は低気圧の進路にあたった地域では100mm前後で、三重県の宮川では288mmに達し、冬期ではまれにみる大雨となった(第4図)。太平洋側の8地点で1月の日降水量の累年極値を更新した。

今回の発達した低気圧による暴風雨雪により太平洋側では主として強風と大雨による被害が、北陸地方や内陸部では強風、大雨、大雪、大波による被害が大きかった。

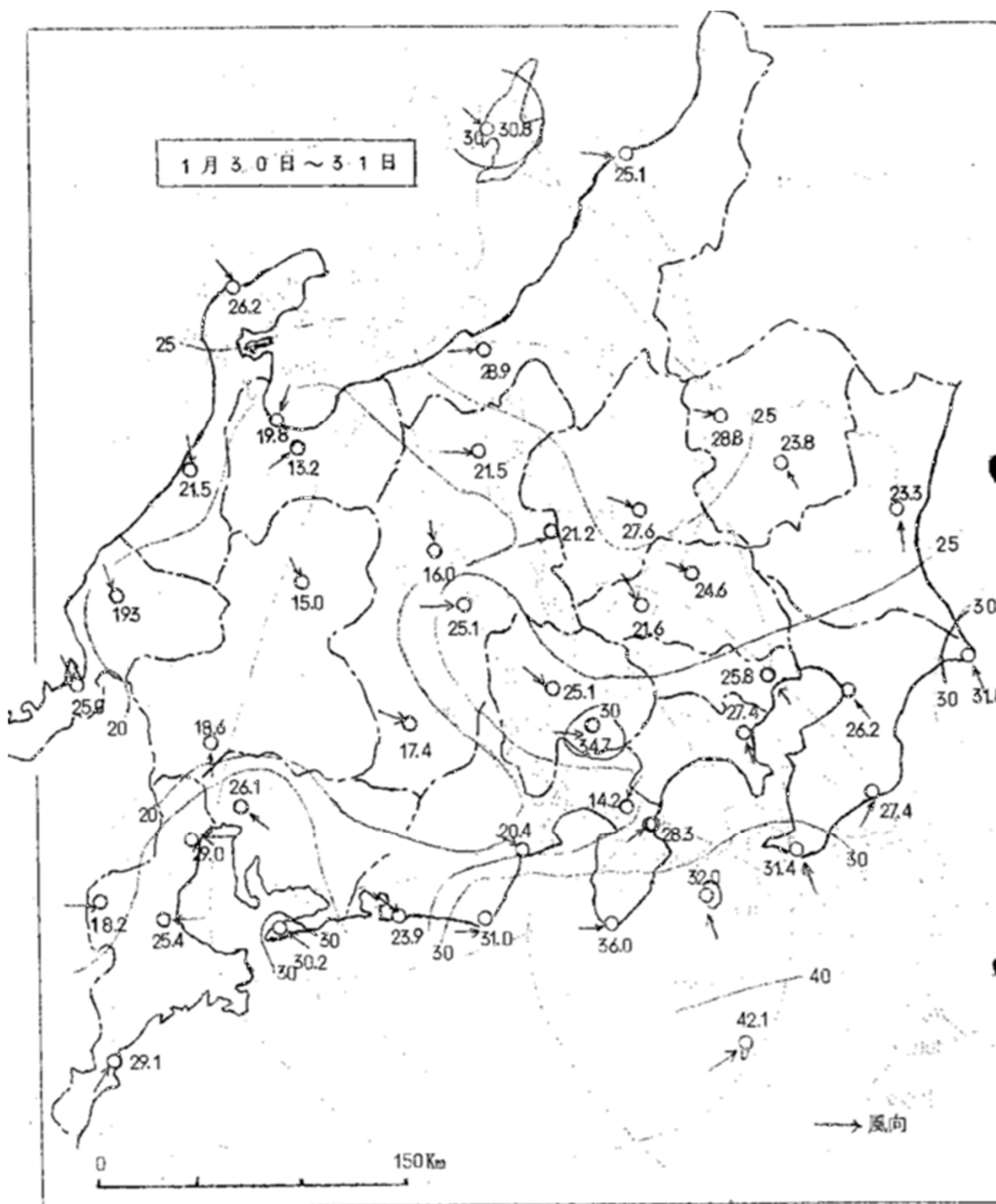
*津・名古屋・静岡・甲府・長野・熊谷・銚子・水戸・宇都宮・前橋・新潟・富山・金沢・福井
地方気象台・管区技術課・諏訪・高田・相川・千葉測候所



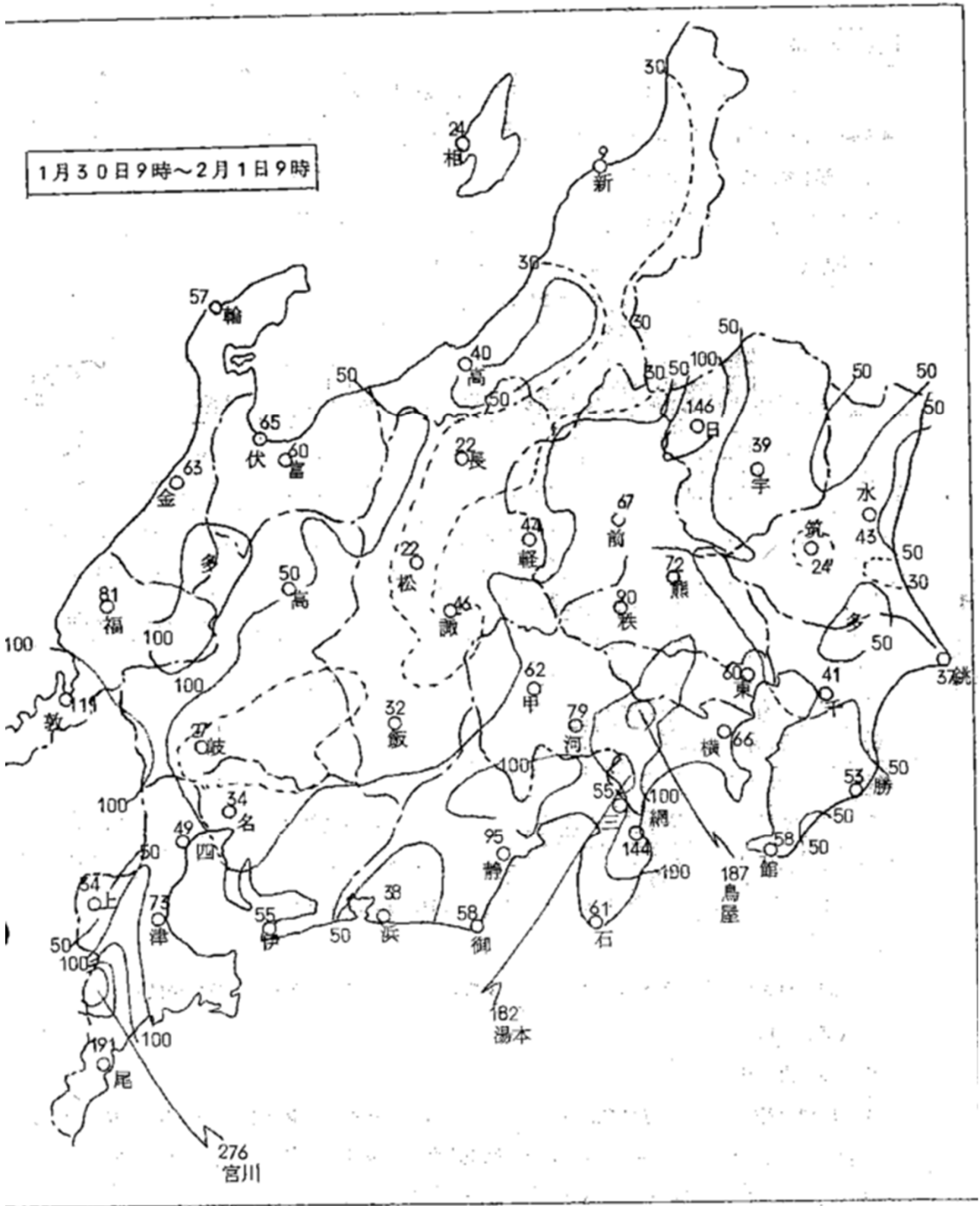
第 1 圖 地 上 天 氣 圖



第2図 低気圧経路図



第3図 最大瞬間風速の分布 (m/s)



第4図 降水量分布図 (mm)

新潟県

県下は31日朝から強風が吹き、低気圧が停滞気味となったため暴風継続時間が長く3日間余にわたり吹き荒れた。このため県西部や佐渡地方の海岸護岸が高波のため決壊、糸魚川市では海岸の市営住宅が全滅にちかい被害をうけるなど被害は全県に及んだ。

	新潟	高田	相川	長岡
最低気圧	972.2mb 31日5時37分	975.8mb 31日7時36分	973.3mb 31日8時12分	974.0mb 31日4時55分
最大風速	18.2m/s W 1日14時20分	15.3m/s WNW 1日12時50分	23.8m/s WNW 31日13時05分	15.5 W 1日22時10分
最大瞬間風速	25.1m/s W 1日10時01分	28.9m/s W 31日7時21分	30.8m/s NW 31日11時05分	
風速10m/s以上の持続時間	31日10時10分～ 2日21時10分	1日8時00分～ 1日16時30分	31日8時30分～ 3日6時50分	31日9時15分～ 3日11時00分 (継続)

最大瞬間風速

	31日	1日	2日
糸魚川姫川橋際	23.8m/s W 18時10分	24.3m/s W 5時30分	22.6m/s W 9時10分
直江津港湾 事務所	29.8 W 8時16分	30.2 WNW 8時30分 13時03分	26.2 WNW 0時28分

新潟県

北蒲原郡

31日4時30分ごろ北蒲原郡南部一帯を襲った突風で水原町下条の木造二階建(200㎡)の工場が全壊損害約150万円。また同じところ安田町庵地の工場の煙突(レンガ製高さ15m)が倒壊した。

西蒲原郡

1日14時30分ごろ西蒲原郡岩室村和納地内にたつ巻が発生、木造作業小屋1むね(100㎡)が全壊した。

南魚沼郡

雨と暖気のため雪解けの水が急増し、31日7時30分南魚沼郡塩沢町片田の鎌倉沢川の堤防が幅20mにわたって切れ、床上浸水12戸、床下浸水5戸、畑流失30aがでた。またこの川のはらんでは上越線が浸水し上下線とも11時ごろから13時すぎまで不通となった。

六日町大月地内では床上浸水4戸、床下浸水7戸大巻地内で床下浸水3戸が出た。

糸魚川市

31日朝から強風が吹きあれ市中心部の海岸の護岸が高波で決壊をはじめた。正午ごろから市内の横町の西浜市営住宅横の高さ4mのコンクリート護岸に8mを超える高波が打ち寄せ200mにわたって決壊、市営住宅2むね(4世帯)が地盤をえぐられ流失、2むねが傾斜、更に1日になって10mを超える高波で被害は増加し結局6むね(10世帯34人)が倒壊、半壊2むねを出した。

31日20時45分ころ中宿の海岸護岸250mが波で地盤がえぐられ陥没し、付近の住民11世帯が避難した。また梶屋敷海岸の市営住宅3世帯が床下浸水、舟小屋3むねが流失した。2日県は糸魚川市に災害救助条例を適用した。

直江津市

31日朝から黒井海岸が高波(最大波高9.3m直江津港湾事務所調べ)により約700mにわたり幅10~40mの砂浜が削られた。このため石油送油管が露出1カ所で切断された。これらの被害のため直江津市の臨海工業地帯はまひ寸前に追いこまれた。

西頸城郡

31日17時30分青海町市振の市振魚協の事務所(185 m^2)が製氷機冷蔵庫、乾燥室と共に流失損害1,000万円。同町八久保、市振の護岸3か所計570m決壊。

名立町小泊も高波をうけ床上浸水7戸、床下浸水6戸、全壊1戸。

31日~1日に青海町市振地内の保育所(木造2階建136 m^2)と併設の児童館(木造平家建163 m^2)が高波のため流失。

青海町では護岸の決壊700mに及んだ。損害は2億6,000万円、同地内の国道8号線が決壊片側通行となった。

佐 渡

31日13時30分ごろ両津市長江地内でたつ巻が起き佐渡建築工業協同組合の木造小屋(160 m^2)が高さ30mも巻き上げられた(損害40万円)。また落ちて来た建物の1部が送電線にかかり断線両津市内で4,500戸が1時間30分にわたって停電した。

両津市の被害

家屋半壊1戸、床上浸水3戸、床下浸水9戸、船小屋ポンプ小屋倒壊20戸、流失漁船10隻、道路決壊22か所、1.125m護岸決壊11か所、457m河川堤防決壊2か所25m。

国鉄関係

31日8時40分ころ信越線で最大瞬間風速38m/sの突風のため勝野田駅で停車中の列車の

パンタグラフと架線が故障一時不通となったが9時半ころ開通との間急行1時間10分～同20分にわたって遅延。

国鉄新潟支社管内の列車はすべて徐行運転，上越線では40分～1時間の遅れ，羽越線上り特急「白鳥」は酒田駅で5時間余りの遅延，信越線は新井，直江津で急行「白山」「妙高」が50分「赤倉」1時間，夜行の「日本海」も5時間の遅れをはじめ40分から3時間の遅れとなった。

2月3日現在被害表（県調べ）

負 傷	10人（重傷5，軽傷5）
建 物 全 壊	7戸
半 壊	3戸
一部損壊	8戸
床 上 浸 水	14戸
床 下 〃	60戸
非 住 家 被 害	122戸
水田流失埋没	0.1ha
水田冠水	2.5ha
畑流失・埋没	0.6ha
道 路 損 壊	18か所
堤 防 〃	33か所
船 舶 流 失 沈 没	12隻
〃 破 損	13隻
被 災 者 概 数	139人
被 災 世 帯	38世帯

建設省所管施設の被害（概算）

海 岸 決 壊	36か所	6億8,000万円
河 川 〃	4か所	400万円
道 路 〃	25か所	5,000万円
橋	1か所	100万円
公 営 住 宅	40戸	6,500万円
		計 8億円

運輸省所管施設の被害（概算）

姫川港	4億6,000万円
直江津港	3億7,000万円
新潟港	5,000万円
両津港	200万円
柏崎港	500万円
計	8億8,700万円
合計	16億8,700万円

（新潟日報）